

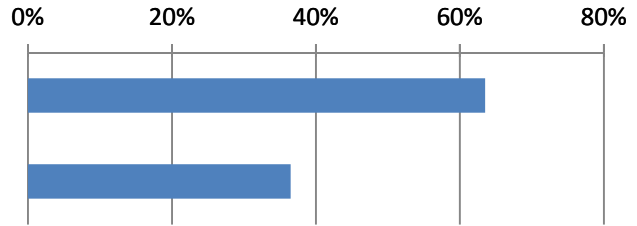
教育学分野における授業での情報活用能力育成の取り組みについて

1. 回答率 13%

依頼教員数	572	(名)
回答教員数	74	

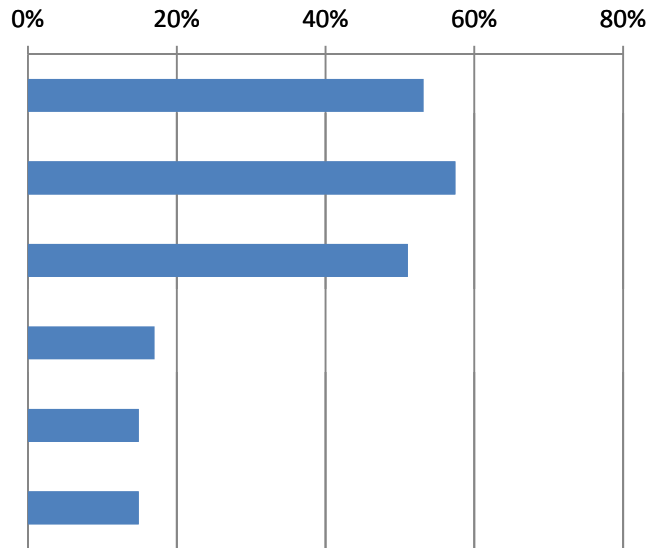
2. 情報教育育成への取り組みの割合

項目	人数	割合
実施している教員	47	64%
実施していない教員	27	36%



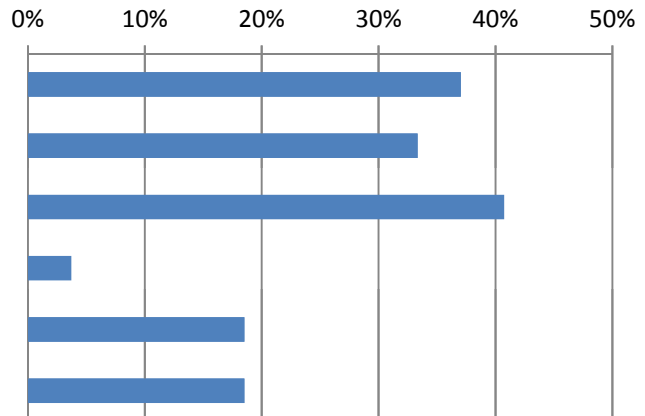
3. 情報活用能力育成への取り組み状況

項目	人数	割合
情報検索ツールを用いて必要とする文献や情報を検索し、その信憑性を検討できる	25	53%
他者の意見(引用文献等)と自己の意見を明確に区分して表記できる	27	57%
基本的なソフトウェア(文書作成、表計算、作図)を用いて、論文作成やプレゼンテーション等ができる	24	51%
目標設定や学習者の実態の把握のために必要な情報を、ICT機器を用いて調査・集計できる	8	17%
集計した情報を表計算・統計ソフトを用いて分析・評価できる	7	15%
収集した情報および教育実践記録などの文字・映像情報のデータベース化を行い、適切に管理できる	7	15%



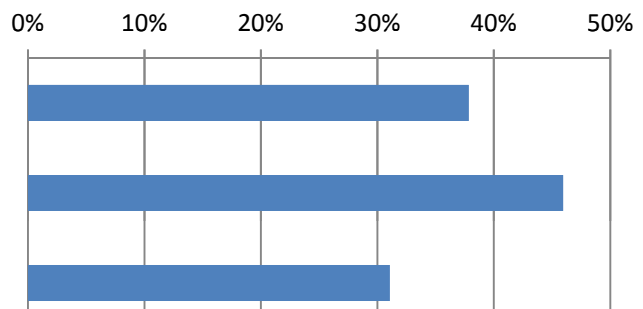
4. 情報活用能力育成を実施していない理由

項目	人数	割合
初年次・キャリア教育で実施	10	37%
授業を進める上で情報活用能力を意識する必要がない	9	33%
授業で教える時間がない	11	41%
学習の支援体制が不足	1	4%
情報活用能力を指導する力が不足	5	19%
その他(基礎演習で実施、教職科目)	5	19%

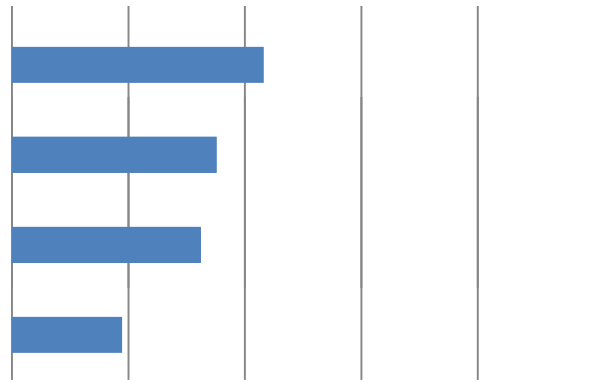


5. 今後取り組まなければならないと考えている教育内容

項目	人数	割合
情報検索ツールを用いて必要とする文献や情報を検索し、その信憑性を検討できる	28	38%
他者の意見(引用文献等)と自己の意見を明確に区分して表記できる	34	46%
基本的なソフトウェア(文書作成、表計算、作図)を用いて、論文作成やプレゼンテーション等ができる	23	31%



目標設定や学習者の実態の把握のために必要な情報を、ICT機器を用いて調査・集計できる	16	22%
集計した情報を表計算・統計ソフトを用いて分析・評価できる	13	18%
収集した情報および教育実践記録などの文字・映像情報のデータベース化を行い、適切に管理できる	12	16%
その他(コピー防止、倫理意識、映像制作、ニセ科学の区別、情報の分析力・批判的思考力・適切な理解)	7	9%



6. 教育内容の例(教員個人の対応状況)

ゼミナールゼミナールでの発表レジュメの作成にあたり、データベース検索などによって先行研究の検索・収集などを行わせている。レジュメの作成では文書作成、表計算ソフトを利用し、できればPPTを利用することをすすめている。
エクセルを用いた点数分析、パワーポイントを用いた教材作成、ワードを用いた図表の作成方法
ディベートの立論準備の段階でウェブサイトからの資料・データの収集を認め、その種類や信憑性の確認方法を指導している。立論やレポートにおいて、資料やデータを引用するときには必ず出典を明示することを徹底している。「コピー」のみで作成したレポートを提出する学生も多い中、オリジナリティのあるレポートを書くまでの指導はなかなか難しいが、学生の意識づけにはなっていると思う。
NIE(Newspaper In Education)の一環と称して、教育に関する新聞記事について、印刷版を購読していない受講生の場合は、インターネット版を検索させて、関心ある記事を提示し、自分の意見を付記して提出、発表させ、受講生からも、プレゼンテーション能力の向上に役立つと評価してもらっている。さらに、進んで記事をスクラップ化し、整理、管理しようとする受講生も、なかには出てきている。また、授業で取り上げる教師像に関する映画やドラマの概要について、インターネットで予め検索して調べている受講生がかなりいる。
情報活用や機器の活用に重点を置いた授業内容ではありませんが、栄養教諭の資格を取得するための授業なので、模擬授業等を行う際に、(教諭として教育現場で)機器やソフトを活用できるようになることを目標として活用の指導等、必要に応じて行っています。
Wikiなどの学生がネットでよく使うサイトの信憑性などを実際のコンテンツを例として紹介しつつ解説する。論文の書き方などの複数の文献をもとに自主的な教材を作り、レポートでの引用や参考にした著作物を明確にするよう話したあと、実際に教育学の簡単なテーマで、訓練的にレポートやグループでのレジュメ作りを行っている。文献検索では、CiNiiの演習を行っている。
各自の課題追究における調査研究段階で、情報の確実性や出典、信憑性の確認、著作権、個人情報への配慮等について触れるようにしている。調べてまとめた学習成果をプレゼンする学習活動の中で、成果物を作成する際に、ソフトの活用について効果的なものを考えさせたり、そのソフトの基本操作を身に付けられようとしている。
初年次において、社会福祉等に関する問題意識(将来のゼミナールにおける研究テーマ)を育てるため、自己の興味に関連した新聞記事、ネット情報を3つ持ち寄り、その内容について図書館を活用して文献検索し、レポートにまとめて発表することを行っている。その際、ネット情報の真偽、出どころなどを明確にするよう指導をしている。また、プレゼンの際に自己の考察と参考文献、情報の著者等の考察を分ける等の指導を行い、ゼミナールにおける研究の基礎力を養うこととしている。ゼミナールで自己の問題意識にもとづく研究テーマの設定にかなりの時間をかけるが、研究テーマは比較の意味もあって、すでに行われている研究テーマとほぼ同じになるよう指導している。また、調査研究を重視しているため質問紙、アンケートなどを用いるが、そのほとんどはすでに行われた研究に用いられた質問項目、アンケート項目と同一のものを用いるよう指導する(特に心理学研究の場合は研究用の質問紙が多数開発され公表されている)。ゼミ論文作成の際に、基礎ゼミ同様に、著書、研究論文の引用は引用文献に明記し、引用箇所を明らかにするよう指導する。またネット情報の場合はその出どころを明記し、真偽についても検討するよう指導するが、学生の多くはその判断が困難な状況である。
基本的なソフトウェアを使わせて、論文作成指導やプレゼン指導をしている。分かりやすい成果が得られた。
文書作成ソフトを使って、一定の形式に従い、簡単な論文を作成する。パワーポイントを使って、上記の論文をもとにプレゼンテーションを行う。内容的には稚拙なものが多いが、入学早々の学生にとって、一定の自信にはつながっているようだ。
全国の学校のHPなどを参照し、どのような教育課程が編成されているのかを、調査し、比較できる力を育成している。
全国の「学校ホームページ」を閲覧させ、自分が良いと思った学校ホームページを1つ選び、推薦理由とともに内容を発表し合う。この活動を通して、学校ホームページの役割を理解させ、どのような内容を記載すべきかについて基礎的な知識を持たせる。そして、将来、学校の教員として就職した時に、情報教育推進者として活躍できるように意識づけをする。教育効果としては、情報発信の際に気をつけるべき個人情報の保護などについての知識をしっかりと身につけることができた(期末テストの結果より)。
毎回提出の小レポートや期末課題の出題方法。取り入れた情報をレポートや課題としてアウトプットするとき、アナログ(つまり手書き)にする。レポートや課題の作成過程において、他者の意見と自分の意見を区分することを意識的に行う(つまり、考察の第一段階を行う)ことができる。教職者養成の科目であることと初年次開講科目であることを踏まえて、このような方法をとっている。デジタル情報に慣れている若い人たちは、情報に対する感覚が鈍くて狭く、鵜呑みにする傾向が非常に強い、と近年特に感じているからである。

<p>本学の情報活用演習は教員養成科目として開講されています。その一つとして、「子どもと楽しむプレゼン」に取り組んでいます。学生一人ひとりが、子どもたちに提示する絵本やお話、クイズ、いっしょに歌おう、などを企画し、制作します。それを、幼稚園や小学校教員の立場でマイクロティーチングを行います。発表者以外は、子ども役になります。単なる情報機器の操作というだけでなく、子どもの理解や指導方法への意識が高まっているように思います。</p>
<p>学生が自分の経験や発想を生かして自分なりの考えをまとめ、学生同士が交流する活動に力を入れている。学生から出された多彩な考えを整理する段階で、KJ法を利用している。そのために書画カメラやPCのプレゼンテーションソフトなどを利用するが、対面授業であるので、あまり機器にたよらず、紙とペン、黒板やマグネットといったローテクの情報機器(器具?)を敢えて利用して教育効果を挙げている。対面授業においては、敢えてローテクの器具で情報交換をするよさを見直す時期に来ていると考える。(電子黒板より、模造紙の方が効果的なこともある。)</p>
<p>教育・保育の実践の積み重ねをポートフォリオ評価として積み重ね、自身で管理し、最終的にレポートとして提出する。</p>
<p>レポート課題の作成にあたって、文献検索の方法と、レポートにおける参考文献の表記の方法について、レジュメによって実例を示しながら説明している。</p>
<p>授業中に電子辞書やスマホ等を使って調べることを推奨している。レポートの書き方を説明する際に、引用の仕方を解説している。ワード、パワーポイントを使って作る課題を課している。</p>
<p>自分の経験等に基づく実感的な意見と文献から知り得たこと、ネット情報から入手したこと、放送や新聞など[信頼できると一般的には考えられている情報源]から入手したこと、国及び公共機関が発信していることなどを、渾然一体としてはいけないことは強調しています。自身の行為の精査も含め、「権威あり」「信頼性あり」とされているものほど「懐疑」がふかいつであることを、様々な事例を挙げて指導しています。唯一絶対も完璧もなく、すべては相対的だということです。</p>
<p>通信教育の一年次教育として、必要に迫られるレポート作成方法について指導を行っている。新書など実際のテキストを分析的に読みながら、読解しつつ、論点を把握し、引用しつつ文章を書けるようなステップごとの指導を行っている。またOPACなどの電子目録を検索し、有効に情報源を探索できるよう指導している。</p>
<p>論文の基本的な書き方や、なぜ、こうした書き方をすることが求められるのかを、様々な教育学領域の論文を例として取り上げながら論じている。こうした取り組みは、短い小論文指導を数多く行うことで、鍛えられると考えている。</p>
<p>実習予定校のホームページから情報収集をさせている。実習へ向けての意欲を高めるとともに、具体的な学習ができるようになるなどの効果がある。</p>
<p>ゼミ指導において、グループ研究を始める際に、図書館員との協力の元、著作権、研究者の倫理等について十分学んだ後、情報を適切に利用するよう指導しています。</p>
<p>作成したレジュメを教授者・学習者支援システム上に公開し、提出用のレポート等もそれを介して行うことを始めている。</p>
<p>辞書や翻訳を扱った際、オンライン辞書の活用を説明した。その関連で、ウェブの翻訳サービスがいかにかいい加減であるかを良く理解させた。学生はウェブ上の翻訳サービスが不適切であることを理解し、鵜呑みにしない態度を身につけさせる、という教育効果が見られた。</p>
<p>教育社会学→調査Dataの集計・分析→報告。道徳教育の研究→「道徳」授業のシナリオづくり、教材検討能力</p>
<p>SMART Notebook、Google Earth等を活用し、より効果的な提示用教材開発の技能を身につけることができた。</p>
<p>教育課題について、グループで、テーマを決めて、プレゼンする授業。学校現場でのアンケート調査の協力が得られにくくなっている中、学生たちの小・中・高の恩師頼みで何とか調査ができています。できるだけ調査研究をするよう勧めている。</p>
<p>ディベートをさせているので、資料の収集やそれを自己の意見としてまとめる力を中心に指導している。少なくとも単なる意見ではなく、裏付けを伴った意見表明の力は身につけているのではないかと考えている。</p>
<p>小学校社会科の授業づくりが「社会科教育法」の主な活動であるので、教材研究における情報検索ツールの利用は必須の活動となっている。また、授業用資料作成における文書作成や作図等のソフトウェアの利用もまた必須の活動といえる。必ずしも「情報活用能力の育成のために」というわけではないが、授業の活動に取り組む上で必要に迫られて情報活用能力を使うことになり、結果としてそうした能力の育成にもつながっている、という感じである。</p>

7. 大学として必要な課題への意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修管理支援システムの構築 ・ 教員の教育力向上のためのFD研修の充実 ・ 教員の教育力向上のための研修体制の充実も必要だと思います。また、回答からずれているかもしれませんが、学生がコピー&ペーストでレポートを仕上げて平気で提出してくる事態に参っています。情報活用能力を使い間違えているようで、どのように指導したらよいか、授業の本題とは別の次元での課題を抱えています。 ・ 教員の教育力向上のための研修体制の充実。大学としてシステム上は整備されているかもしれませんが、以下は私個人の問題かもしれませんが、教員の教育力向上のための時間の確保が大切だと思います。 ・ 基本的なソフトを利用できる学生が増えているが、情報の取捨選択、信憑性の確認など、情報利用に当たっての基礎的な知見を身につけるための支援が必要であると考えている。 ・ 引用文献等の取扱いについては、丁寧に指導する必要性を感じている。 ・ 大学院では上記の内容について、かなり綿密な指導が可能であり、実践できているが、学部の講義系科目だと多人数のため指導が困難である。一般的な情報処理の授業では指導されているが、学部の専門の授業内容とマッチした形では展開できていない。 ・ 科目の性格やそのときどきの内容によって、情報活用能力を必要としない場合もあると考えられるので、すべての授業においてそれを求められるのには疑問を感じる。 ・ 初年次教育の一環として、情報処理リテラシーの育成を企図する。ワード、エクセル、パワーポイント、ユーチューブ等の適切な利用について。

- ・ SNSなどの実在のツールを使ったシミュレーション的な教材による情報倫理の教育が必要である。実際のSNS上で、かなり個人情報管理のずさんな学生が社会的制裁を受けている例があるから。
- ・ 情報活用のための方法や考え方に特化した授業だけでも身に付かないので、問題解決的な小テーマをもった調査研究に取り組む演習と合わせて、情報機器やネットの利用等の活用する中で、考慮すべき点や利活用できる能力を身に付けさせていけるようにしたい。(授業カリキュラムの改善)
- ・ これまでゼミ論文の作成、研究指導において、ネット情報は真偽がわからない情報が多く、著書、論文等文献中心に研究を行うことが正しいと考える教員が多く、ネットを検索することをあまり奨励しない雰囲気があったが、スマートフォンやタブレットの普及に伴ない積極的に活用する土壌を作る必要性が増大している。タブレット等を通常の授業にも活用することは、辞書を参照しながら授業を受講しているとほぼ同じとも言えると考えられるため、あらゆる分野の授業において積極的に活用できる、する方法を早急に構築する必要がある(意外と使いこなせない学生も多い)。ネット情報の真偽や自己の意見との区別は、情報の選択と自己の観点の問題と考えるため、対情報というよりも他者との意見の交換や話し合いによる自己の観点の明確化をより強化する必要がある、その意味でも学生と指導教員の意見交換や話し合いは非常に重要と考えている(話し合いを嫌がる学生も多い)。
- ・ 幼稚園教諭、保育士養成のなかで指定された科目の中には、ICT活用に関する項目がないことが問題であるとする。確かにダイレクトな幼児教育には私も必要性は低いと考えるが、保育者自身のスキルアップには、たとえば保育技術はyoutubeなど大いに活用することができ、保育指導計画のIT化も進みつつある。しかし、それらを総合して保育に活用していく科目もなく、支援できる教員も少ないのではないかとと思う。保育者養成の教員はとも多忙で、また教授内容も決められており、自由裁量が少ない。必要であると思っても十分な指導まで至らず、あるいは、その必要性を思っていない教員もすくなくからずいるのではないかと。
- ・ 数値化できない能力や、ラーニングアウトカムズ評価の網目から抜け落ちた能力を見極め、育てる力を構築すること
- ・ 一定のシラバスのもと、教養部の教員全員で分担し、それぞれの持ち味が活かせるやり方で実施している。それによって、入学生全体のレベルアップを図ることができていると自負している。しかしその一方でモチベーションを高められない学生が少なからずいることも事実である。またレベルアップをしたと思われる学生にとっても、かれら自身が納得した学びになっているかという点、定かではない。学習方法とか機器の充実だけではなく、彼らの現実の生活とか、これまでの学習履歴、あるいは学びの要求といったものを引き出しながら、将来の専門性やその後の人生に橋渡ししていけるような授業スタイルを検討する必要があると、個人的には考えている。
- ・ WEB上での情報入手能力はあくまで「ひとつの武器」であり、科学研究に欠かせない批判力を身につけさせるためには、フィールドワークなどを通じた自前の情報蒐集能力を身につけるべきであると考えている。
- ・ 学士力として、情報収集はもちろんのこと、比較分析をし、信頼性を評価し、目的に合わせて価値づけが出来る力を養成する
- ・ 情報活用能力の具体的な内容を明確にして、それを段階的に示したものをカリキュラム・マップとして明示することが必要であると考えている。大学4年間でどのような能力が身についていくのか、現在の学習がどこに位置づけられているのかを学生自身が逐次確認することができるようにすることが必要である。個々の科目のシラバスよりもむしろシラバスの全体像(学科、学部、そして大学全体)を、学生が把握しやすいような方法の工夫が必要である。
- ・ 情報活用能力の育成は、講義科目よりも演習科目の方が育成しやすい。自分でテーマを設定し、仮説を立て、調べ、検証し、レポートとして発表するという情報活用能力育成の一連の流れを体験することができるからである。本学の教育学部では、ケースメソッド、卒業研究の授業が情報活用能力育成のための演習科目にふさわしいと思うが、芸術分野では実技中心であり情報活用能力はあまり必要とされていない。専門によって情報活用能力の必要性に差があるというのが課題である。
- ・ 入学してくる学生の情報活用能力の個人差が大きくなっているように思います。それぞれの学生のニーズに合わせたカリキュラム、指導体制を構築していくことが必要だと考えます。
- ・ 情報活用能力の育成に関する方針の確立
- ・ 学生に小規模な調査や研究を行わせ、そこでどのような情報収集や判断をおこなっているのか見とり、その妥当性について具体的にアドバイスするような少人数編成の基礎科目を設ける必要がある。
- ・ 学生の自学・自習スペースの確保 教材開発などが継続的に実施出来る教室とその管理システムの構築
- ・ 高校で「情報」が必修になったことで、メディアリテラシーや情報リテラシーが向上した学生たちが入ってくるか、と思っていたが、実際には学生たちはよりケータイに依存してPCすら使わないようになってきている。これがさらに急速にスマートフォンに移行しているため、ますます自分から調べる、という意識が弱まっている。そもそも大学とは資格や学歴のためではなく、学問にふれる場であり、知的探求の場であることをまず理解させる必要に迫られている。
- ・ 学士力や就業力の育成において、本学では携帯端末を学生に貸与して、ウェブ上のポートフォリオ作成に取り組んでいる。しかし、学生とともに、教員の活用状況に課題が大きい。研修をして使い方を理解しても、活用につながっていない。学生・教員双方の活用を促す仕掛けが必要である。
- ・ 学生に力をつけさせるためには、より少人数で行う授業が必要となる。授業以外でも学生と共に過ごす時間をより多く確保する必要がある(その体制を作ることが必要)
- ・ 課題は、学生に「自分の考えを分かりやすく他者に伝える能力」を身につけさせることです。
- ・ 教職免許取得のために必要な情報機器の操作が必修であり、さらに情報活用能力全般については、初年次から4年次まで系統的に演習科目を設けて育成をはかっている。大学としての課題というよりは、むしろICTを利用した教育全般の課題であろうが、本当の意味で、授業に活用可能なICT環境の構築が必要である。本当にICT機器を用いて学習効果があがっているのかどうか、冷静に検討する必要がある。
- ・ 情報活用に向けての教育・学習支援者の確保、教員の情報活用能力の向上のための研修体制の充実
- ・ アリストテレスが逍遥の中で思索を深められたような、大学という空間に「ゆとり」があること。市場原理に教育が靡かないこと。
- ・ 情報活用能力を身につけるための基礎的な科目の設置。各教科における情報活用能力育成への取り組みをシラバスに掲載する。

- ・ 学内の電子情報のゲートウェイである大学図書館に関する認識が薄い。専門的知識を持った高度な情報専門職を配置・育成していないために、充実した情報サービスや情報環境が実現できていず、そのために図書館機能を活用できず、認識が乏しいために充実のための投資も少なくなるという悪循環に陥っている。
- ・ 学士力としての情報活用能力の位置づけの明確化とシラバスへの掲載
- ・ 情報リテラシーはスキルの問題だけでなく、現代の倫理的な問題やポリティクスの問題も包含している。つまり、情報活用能力が大切という言葉そのものに対する理解がまだまだ十分ではない。情報活用能力の問題は実はその理解の程度は、教員間において、様々である。全学として専門分野を越えて取り組むべき課題である。
- ・ 他の講義で、学生がどのような情報リテラシーを身につけているのかよく知らないでいます。さまざまな学部・学科の学生を対象にしていますが、そうした状況把握に勤めたいと思います。
- ・ 情報活用能力の基礎的知識についての大学での研修制度の充実
- ・ 確実に育成する体系的なプログラムの構築とその学士教育上の位置づけの明確化が必要である。
- ・ 施設・設備の充実が必要であると思う。教科の指導内容に即した設備がある教室数が確保される必要がある。たとえば、「教育社会学」の時間を2時間担当しているが、一方はPCがある教室だが、もう1時間はPCのない教室が配当され、そこで、同内容の授業を行わなくてはならないので、教室の設備環境の充実が第一だと思っている。サポート体制もさらに充実が必要であると思う。学生自身が情報活用能力を身につける時間的余裕を確保する必要がある。
- ・ 情報活用能力育成への取り組みの有無をシラバスに掲載
- ・ 学部の違いによる情報活用能力の差が大きい。(最低限の履修は、学部に関係なく決まっているようだが)
- ・ 学習支援ツールを立ち上げ、授業外でのレポート作成支援等を行いつつある。今後はそのシステムを学生・教員ともに使いこなせるように努力したい。
- ・ どの学生にも共通の目標・内容を設定して、一様に情報活用能力育成のための取り組みを実施する、というのではなく、情報活用能力が(おのずから)必要とされる場面を設定するか、何か情報活用能力を必要とする学生がいた場合にその必要に応じて支援をすとか、学生のニーズに合わせた形での取り組みがよいのではないかと考えています。